

発行: 2024 年 7 月 4 日

ロジスティードとタイヤの故障予知に向けた実証実験を開始 ～タイヤ空気圧・温度を監視、トラックの稼働率を向上へ～

住友ゴム工業(株)(社長:山本悟)は、7 月からロジスティード株式会社とトラックの稼働率向上に向けた実証実験を始めました。ロジスティードが保有する車両に、当社が開発したタイヤ空気圧や温度をモニタリングして異常を知らせる「タイヤ空気圧・温度管理サービス」を導入します。この実証実験は、メンテナンスや車両調達などの管理を一括して担う「フリートマネジメントサービス事業」の進化を目指しており、当社として国内初の取り組みです。

タイヤ空気圧・温度管理を通して、タイヤトラブルを未然に防ぐことで、車両稼働率の向上、走行時の安全性向上、点検業務の効率化、燃費およびタイヤ寿命の向上レベルを検証します。これにより、当社が目指すタイヤを含む車両全体の故障予知ソリューションサービスの展開を加速させます。実証実験を通じて、ドライバー不足が懸念される物流の 2024 年問題の解決にも貢献していきます。



当社は、これまで運送会社、車両リース会社、レンタカー会社を始めとする数十社と「タイヤ空気圧・温度管理サービス」の実証実験を実施してまいりました。また、海外では 2023 年に米国・Viaduct 社とフリートマネジメントサービス事業での実証実験を開始しました。^{※1}

今回の取り組みでは、ロジスティードグループの首都圏を走行するトラックにタイヤ空気圧監視システム(TPMS)を装着し、タイヤ空気圧と温度をモニタリングします。走行時にタイヤに異常が生じた際には、ドライバーに通知され、車載用通信機から当社クラウドを通じて運行管理者にもメールで通知されます。一般的なタイヤ空気圧点検では見つけることが難しいとされているスローパンク^{※2}も早期発見することが可能です。タイヤトラブルによる車両の稼働停止時間を短縮するとともに、ドライバーと積荷の安全を守ります。さらに適正な空気圧管理による燃費向上や、当サービスを活用した運行前点検の効率化にも寄与します。

当社では、CASE^{※3}/MaaS^{※4} に対応する高い安全性能・環境性能を実現するために、タイヤ開発および周辺サービスの開発コンセプトである「SMART TYRE CONCEPT」を掲げています。実証実験を通じて、タイヤの故障予知が車両稼働率向上に寄与することを確認するとともに、「SMART TYRE CONCEPT」の周辺サービスの中核を担う「センシングコア」および関連サービスの開発に繋げていきたいと考えています。

※1 米・車両故障予知会社の Viaduct 社と『センシングコア』の共同実証実験を開始(2023 年 10 月 19 日発行リリース):

https://www.srigroup.co.jp/newsrelease/2023/sri/2023_059.html

※2 ごく小さい穴や亀裂、リムとタイヤビード間からのエア漏れ、エアバルブからの漏れなどにより徐々に空気が抜けていく状態。

※3 Connected(コネクティッド)、Autonomous(自動運転)、Shared(シェアリング)、Electric(電動化)などの次世代車両技術。

※4 Mobility as a Service の略。異なる交通機関を、IT を用いて簡単かつシームレスに使うことができる次世代移動サービス。

■ロジスティード概要

社名 : ロジスティード株式会社
URL : <https://www.logisteed.com/jp/>
本社所在地 : 東京都中央区京橋二丁目 9 番 2 号 ロジスティードビル
代表者 : 代表取締役 会長兼社長執行役員 中谷康夫
創業 : 1950 年
事業内容 : 国内および国際物流事業、情報システムの開発 等

■ご参考

ロジスティード株式会社ニュースリリース:<https://logisteed.com/jp/news/20240704.html>

以上